

第2回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」会議録

- 1 日 時 令和3年3月19日（金） 午前10時から正午まで
- 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル 1階 グランヴィリオホール
- 3 出席委員 荒木光二郎委員，市岡沙織委員，儀宝修委員，近藤明子委員
坂田千代子委員，瀬尾陽子委員，孝志茜委員，辻貴博委員
西村智子委員，福谷あずさ委員，分木秀樹委員，松本賢治委員
山下一夫委員，結城栄子委員
- 4 式次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1)徳島県版「スクール・ミッション」の策定について
 - (2)各高等学校のスクール・ミッション(案)について
 - (3)意見交換
 - (4)その他
 - 3 閉会

〈意見交換〉

会長

それでは意見交換に移ります。どなたからでも御自由に御意見を言ってください。

委員

スクールミッション案を読ませていただき，2つのグループに分かれているという印象を持ちました。まず1つは，「地域」がキーワードになった「地域との連携」，「地域との産学連携」，「地域と連携したブランドの創出」，「地域と密着したビジネス」等です。これは，資料2の策定の視点の(1)③に対応したものであり，的確な視点であると思います。

もう一つは，「グローバル」や「社会をイノベーションする力」等がキーワードになったものです。高い志を持って国内外が抱える諸課題の発見・解決に向けて対応できるリーダーとしての素養を育成するといったものです。

また，この2つを組み合わせたやり方として，グローバルな視点を持って地域に貢献すると書かれているものもあります。これらは，はっきりと特徴が出ていて，選択肢が広がることで多様な進路実現が可能になると感じました。

一方，「持続可能な社会づくり」という視点は，端的には出てこないもので，学校によっては取り入れてもよいのではないかと思います。

城西高校神山校のスクールミッションのように，「地域に根ざした造園業」や「持続可能な環境保全型農業」，「地域産業を支えるために必要となる力を育成する」等の特色がはっきり出るものがないのではないのでしょうか。

委員

どの高校というのではありませんが、スクール・ミッションを見ただけで高校が分かり、その特徴が伝わってくるものだと思います。先ほど、それぞれの学区ごとに代表的なスクール・ミッションを説明していただきましたが、その中にはうまく特徴が伝わっていないものもあったと思います。例えば、小松島高校であれば「生徒授業」という固有名詞を入れるのもよいのではないのでしょうか。固有名詞を入れることで特徴がよく伝わると思います。また、グローバルもいいですが、地域性や郷土愛も伝えてほしいと思います。

委員

中学生が見た時、横文字の「イノベーション」や「リーディングハイスクール」は難しいのではないかと感じました。また、単に「地域産業」と書くだけでなく、具体的に記載されていたほうがわかりやすいと思います。

会長

文字数について何文字以内等の具体的な取り決めはあるのでしょうか。

事務局

文字数に決まったものがあるわけではありませんが、キーワードでわかるものを目指しており、案としては3行以内を一つの目安に作成しました。神山校のように特色のある教育を実践していくところはそれを入れたいのですが、もう少し精査していく必要があると考えています。

会長

4月に教育委員会がミッションを策定して、それに基づいて各校がポリシーを定め、さらにそれを踏まえて7月にそれぞれ特徴を持たせて生徒募集案内をするという流れということでしょうか。

事務局

スケージュール的には会長がおっしゃったとおりです。これまでのスクールガイドでは、興味がある学校は見ようとしますが、今回のように共通の様式で見てわかるようなものであれば、それ以外の学校についても目が向き、さらにそこから踏み込んで学校案内を見ていただけるものを目指しています。

委員

スクール・ミッションが3行程度とすると、資料4の広報が具体的に書けるところになると思いますが、可能な範囲で数値化するとより分かりやすくなるのではないのでしょうか。他校と比べてどのような数の違いがあるのか等を示すといいのではないかと感じました。

委員

学校では教育活動の振り返り、評価を行います。それと同様に今回の取組をどのように評価するのかということや学校評価、学校評議員会にどのように反映されていくのかということを感じました。教育の中で数値化することというのは難しいのですが、そういったこ

とが必要なのではと思います。

委員

よく練られたミッションだと思います。しかし、修飾語や修飾句が多くて、一番言いたいことが伝わらないと感じています。例えば、城東高校でいいますと、「高い志を持って全県下から集う仲間と切磋琢磨しながら成長できる環境のもと」の箇所は本当に全部必要でしょうか。どの学校も生徒は志を持っており、城東高校だけ「高い志」と書いた理由がよく分かりません。本校も全県一区ですが、全中学校70数校のうち50数校から本校に来ています。そういう意味では本校も全県下から集う仲間です。また、「リーダーとしての素養を育成する」というリーダーとは、どのようなリーダーなのか。本校もリーダーを育成する教育は行っています。それを城東高校やその他数校だけにリーダーという文言を使うのが果たしていいのか。学校の序列化が進んでいるのではないかという印象を受けます。特徴を出して横に広くするというのが本来の目的だと思います。特徴を表すことに特化して書いたほうがいいのではないのでしょうか。

委員

スクールミッション、スクールポリシーについて、例えば、吉野川高校の「生産、加工、販売、店舗経営」は、非常に具体的で、中学生、保護者等が見て、すぐにその学校がイメージできるよい表現だと思います。一方、普通科の場合では、幅広い進路実現という表現がほとんどでイメージしにくいということがあります。例えば、学校設定科目を設けて理系に注力しているとか、専門学校の進学までを見据えて幅広くやっていると、生徒がイメージしやすい表現があればよいのではと感じました。

委員

具体的に書いたほうがイメージしやすいと感じました。このスクールミッションでは、普通科同士の違いがイメージできませんでした。例えば、このミッションの中で、広島叡智学園みたいな新しい取組ができていくのかどうか。もう少しチャレンジングな目標やミッションを掲げてもいいのではないかと思います。

委員

スクール・ミッション、スクール・ポリシーの広報イメージに関して、教育委員会のホームページ等で一覧で見られるのかということや、各学校でより分かりやすいものを作る予定があるのかということをお教えいただきたい。

事務局

現在、入試前には生徒募集案内という冊子を作っており、高校ごとに学校の特色や志願してほしい生徒像、募集人員、特色選抜の実技の内容等を見開きで掲載しています。この冊子は、各クラスに一冊分程度の部数を各学校に送付しています。また、各高校において募集案内をホームページに掲載しています。今後については県教育委員会のホームページに一覧でわかるように、また、動画を作成している学校も多くあるので、QRコードを貼り付けて興味がある高校の情報にたどりつけるようにしていきたいと考えています。

委員

県のホームページにテキストで一覧で掲載されていても興味がある人しか読まないの
で、気軽に読める広報の仕方が重要だと思います。限られた文字数でイメージを表現する
のはCMのコピーライトを考えるみたいな世界になってきて、なかなか難しいと思うので、
一言で表現するだけでなく、補足できるような形で特色が出せたらいいのではないかと感
じました。

委員

県のホームページでも公開するとのことですが、県教育委員会が公式に発表したホーム
ページの中で序列化が進むことがあってはならないと思います。よほど慎重に言葉・内容
を選んでやらなくてはならない。ここには美辞麗句も入っていますが、そういった言葉は
極力カットして、本当に学校でやってること、やろうとしてることを具体的に書くべきだ
と思います。各学校がこういうふうにしたいと言うのであればまだ分かりますが、公的な
立場の設置者である県教育委員会が発表するのは非常に重いことです。

委員

本当によく練られたキーワードが並んでいるミッションですが、実効性のあるものにし
ないと絵に書いた餅になってしまいます。また、策定までの過程がとても大事で、県教育
委員会がこういったビジョンを持っていることを一旦示しながら、学校現場に返して、キ
ャッチボールをしつつ、適切なものを設定するべきでないかと思います。このミッション
を実効性あるのものにするためには、生徒にどんな力をつけたいのか、どんな将来像を描
いているのか等を思い描くことができるものにする必要があります。また、ミッションの
作成過程で教職員の意識を喚起することも大事だと感じています。この一年、コロナ禍で
例年通りにできないことが多い中、柔軟な思考でスクラップアンドビルドしている時なの
で、本当に実効性あるものが生まれてくるのではないかと感じながら聞いていました。

会長

広報の前の段階でのミッションの在り方や、学校がポリシーをどう作成してくのかとい
うこと、また、そこでのキャッチボールが大事だというようなところ、さらには、ミッシ
ョンが教育委員会からの押し付けにならないか心配だというご意見等がありました。その
あたりについてはいかがでしょうか。

事務局

本日のたたき台を作成するにあたって、昨年末に各校を訪問しており、それぞれの強み
やこれまで培ってきたものを踏まえたつもりではあります。また、教育委員会として修正
したところも多々あります。まだ今の段階では、御指摘のあったキャッチボールが十分に
できている状況ではございませんので、今後、策定に向けてそういったこともやっていき
たいと考えています。

委員

先ほど、委員から事実としてやっていることを書くべきで、美辞麗句的なものが多いと
いう話がありました。それはその通りだという気がします。キャッチボールをしながら学
校が納得して、教育委員会の押し付けにならないという前提ではありますが、資料2の徳

島県版「スクール・ミッションの策定について」に私は非常に感銘を受けました。例えば、1の徳島教育大綱に掲げる、「未知の世界に果敢に挑戦する夢と志あふれる人財の育成」という非常に高い目標を掲げられております。

これは知事も「ムーンショット」ということで、例えば宇宙旅行等の実現が難しいような新しいチャレンジをする人や、あるいは、徳島大学の野地学長は『BOLD 突き抜ける力』を取り上げ、社会を変えていくということをおっしゃっていますが、そういうこととも相通じる感じがします。それでいながら、徳島への郷土愛や誇りを持ち、持続可能な社会づくりの担い手という文言も入っています。

神山の話になりますが、神山まるごと高専を作られようとしているSanSan株式会社の寺田さんは、50年後、100年後に神山がシリコンバレーになっている可能性は大いにあると考えています。彼自身シリコンバレーで働いていたことがありました。シリコンバレーも元々はただの山だったのですが、シリコンバレーとか神山バレーみたいな流れを作るといのは、徳島に根付きながら世界にイノベーションを起こして、新しい当たり前をつくる、世の中を変えていく人材を育成するというような志も考えられているように感じました。したがって、押し付けにならない範囲でキャッチボールしながら、高い志的なものも入ってもいいように思いました。

委員

企業的な視点になるので、また視点が変わるかもしれないですが、このスクール・ミッションとスクール・ポリシーはセットで考えるようなものではないかという印象を持ちました。企業の視点で考えると、いわゆるスクールミッションは企業理念のようなもので、どう決断しようか迷った時に基本として立ち返るべきものです。それに対して、スクール・ポリシーは、それを受けて実際の事業や最終的な業績という数字にあたるものであり、どちらか一方だけというよりは、この2つは両輪のような形で考えるのがよいのではないかと感じました。

学生が企業に就職する場合も、ミッションの企業理念に惹かれて業務内容を見る場合もあるでしょうし、逆に自分はこういう仕事がしたい、こういう業績があげたいというところから理念を見て合う合わないを決めていくこともあると思います。ミッションでは魅力的なことや基本に立ち返れるようなことが書かれているのがいいのではないかと思います。ただ、実績や数字と合わなくなってきたら是正しないといけないと思いますし、書き方は気をつけなければいけないと先ほどの御意見を聞いて感じました。

企業側から見ると、決して偏差値の高い子を取りたいとは思っておらず、現場のリーダーでクラブ活動に熱中していた子が欲しかったりもしますので、ミッションでは多様性を示せばいいのではないかと私も感じています。

委員

先ほどの委員と私の意見は一致するのですが、県教育委員会が広報をするということで、学校側とキャッチボールして行うのは当然です。ただ、学校の詳細を得たからといっても、一般の方は学校側とやり取りをしている事を知りません。いずれにしても県教育委員会が公式に発表したということになりますので、慎重にやっていただきたいところです。やり取りするのは大事ですが、それを加味した上で県教育委員会として学校にどういうことを求めるのかを示してほしい。ただ、学校の詳細を得られたからといって、「リーダー」とか「高い志」を入れない方がよいと思います。どこの学校の生徒も、程度の差

はあるかもしれませんが志を持っています。修飾語はできるだけ外して表現できることをしっかりと書く。塾とか予備校がランク付けするのは自由ですが、県教育委員会が公式に発表したことで序列化されることはあってはならないと思っています。ですから、そういったことをきちっと考えていただいて、そうならないように委員の皆様がおっしゃっていることを慎重に加味していただきたい。

委員

中教審が7月に出している「新時代に対応した高等学校教育の在り方」の論点整理の中で、ミッションは何のために作るのかということが書かれています。それと資料2にある「スクール・ミッションとは」の箇所が少し乖離しているような気がします。ここにある徳島県版「スクール・ミッション」については、その高校の先生が共通認識を持つために作るような書き方がされています。

一方で、中教審が出している内容については、卒業生や地域の方々も含めて本当に多様な関係者に対して示すものということも書かれています。そのことも踏まえて、果たして中学生が読んで分かるのか。もう少しまとめ方と目的を明確にすべきではないかと思いました。例えば、脇町高校をみると「進取の気風を継承し・・・」と非常に難しく書いています。誰のために、何のためにという視点からもう一度振り返って、もう少しすっきりまとめられたらどうかと感じました。

また、序列化につながらないような配慮が必要だということは私も感じています。

委員

保護者としての感想ですが、このスクール・ミッションでは中学生には意味が全然伝わらないと思います。言葉が難しすぎます。私が中学生だったら絶対ずっと見て終わると思います。この意味が分かる保護者ばかりではないということも踏まえて作っていただきたい。また、ホームページやQRコードを入れるのであれば、今現在通っている生徒たちの活動等も広報していただきたい。

委員

今の中学生や保護者にとって分かりやすいかどうかという視点で見ると、例えば、文化やスポーツ、国際性、商業、農業等のコンテンツが並んでいて、注力しているところに3つとか4つ丸が入っているような一目で特徴がわかるような方法もあるということをお伝えしておきます。

委員

今の学区制だと特徴ある高校にすることは、特に普通科高校は難しいのではないかと感じます。全県一区にして一芸に秀でた高校とそうでない普通科高校等、もう少し役割分担した方がいいのではないかと感じます。徳島県の弱点は私立高校がそれほど多くないことです。したがって特徴を出すというのはある意味私立高校みたいに一芸に秀でているような高校を作るようなものではないかと感じます。ただ、今の学区制はすぐに変えられるものではないので、広報等を行い、その中で特徴づけをしていって欲しいと思う次第です。

会長

学区制に関しては教育委員会の方で何か御意見ありますでしょうか。

事務局

学区制に関しても、平成30年度になりますがあり方検討会議を開催をさせていただき、学区のあり方について御議論をいただいたところです。いろんな御意見がありましたが、二つ御提案いただきました。一つは新たに全県一区の普通科高校を作ること、もう一つは流入率の見直しをするということです。先日の令和3年度入学者選抜で城東高校を全県一区として実施したところです。

また、その後3学年がそろそろまで、3年ほどかけて見直すのが望ましいのではないかといった御提言もいただきました。令和3年度入学者選抜は、まだ二次募集も残っております。それが終わり次第、流入率の変更と城東高校を全県一区にしたことの検証をしていかなくてはならないと考えています。今の段階では結果が分かりませんが、結果が出た段階で御意見をいただくこともあろうかと思えます。

会長

私は、在り方検討会議の議長をしていたのですが、全県一区の学校の状況と、流入率をその都度見直し、最終的にはちゃんと検証していきましようということになりました。各校に特色を持たせる上で、学区制が縛りになっているのではないかという点についてはどうでしょうか。

委員

学区の中に普通科、専門学科がバランスよく配置されていますが、これから非常に人口が減少することになるので、その点も縛りになるのではないかと思います。委員もおっしゃっていたように、私のところも年に5から10人新入社員が入ってきます。社会でちゃんと生きていけるかどうかは出身高校は関係ありません。スポーツだけに特化した高校を作るといった特徴づけ、あるいは地元で根ざした高校を残すといった取組をしていかねばならないと思います。

委員

ミッションとポリシーは車の両輪のような形ですが、生徒が知りたいのはポリシーの方ではないでしょうか。綺麗事かもしれませんが、偏差値でどっちが上下というよりは、どのように社会貢献したいのか、どういう風に仕事をしていきたいのかということを育てるのが高校や大学等の教育機関の使命であると思います。生徒にとっても入学が目的ではありません。点数がこれくらいとかスポーツができるからとかというよりは、それを活かして社会人としてどういう風になっていくのかというイメージを持っていただくのがよいと思います。

新入社員を見ていた時にも、こういうことがしたいという自己分析ができている学生は凄く力を発揮しているイメージがあります。それを踏まえての意見ですが、進路実績の欄に四年制大学や民間企業等が書いてありますが、学生が見た時にあまりイメージがわからないのではないかと思います。具体的な企業名でなく、製造業が何パーセント、サービス業が何パーセント、あるいは研究職が多いとか、体力が活かせるような仕事が多いといったことが分かる方がよいと思います。

学校に序列がないのと一緒に企業にも序列はないと思っています。上場企業かどうかよりもジャンル・職種を記載することで、先生や保護者と自分の将来について考えるような機会になれば企業側としてはすごくいいと思います。そのようなことを記載した上で、それを選んで入った学生さんと言うことになれば、同じ資料を企業側にいただければ、この学校の生徒に説明に行ったらいいんじゃないかという具合に、生徒、企業側の双方が同じ資料を使えるようになるのではないかと思います。進学先も単に四年生国公立大というようなものより、理系・文系別をしっかりと記載したりする方がよいのではないのでしょうか。

会長

大学改革のことについて話をすると、国立大学は6年ごとに目標を立てて、それがどれだけでできているのかによって運営費交付金の金額も変わってきます。ちょうど今第3期が終わる時期でこの4月から6年目を迎えます。第4期どうでしょうかというところで、文科省と国立大学協会が話し合っています。

それを踏まえて、文科省が大きな目標を提示し、各国立大学は具体的目標と計画を立てます。そこでは、先ほどキャッチボールと言われた委員がおられましたが、そのような話し合いを文科省と各国立大学はしています。学校経営学会の会長をしている本学の理事によると、一生懸命話し合い、考えて頑張る学校は伸びるとのことです。県と学校現場が一緒になって考えてもらい、変な序列がつかないように多様化を目指し、評価をしてメリハリを効かせてもらったらいいいのではないかと感じています。

委員

同感です。ミッションの語尾が、「～する力を育成する」とか「素養を育成する」と統一した上で学校に問い合わせていると思いますが、学力だけでは測れない個性とか能力を持つ生徒が欲しいと社会の側も望んでいるし、学校も育てたいと考えています。したがって、ミッションの語尾は「自立心を持ち何事も積極的に取り組める生徒を育てる」といった表現の方が生徒や保護者に分かりやすいのではないかと考えています。

委員

長野県教育委員会や大阪府の教育委員会で、すでにこのような取組を進めています。先ほどの結城委員の話に関連しますが、ある工業高校では育てたい生徒像を人間力、実践力、技術力として公表しており、わかりやすいものになっています。長野工業高校では中学生が分かりやすい絵を挿入するなどしています。長野県の飯山高等学校ではグランドデザインとしてポンチ絵を用いてわかりやすく広報しています。

会長

イメージ的に言うとミッションがあってポリシーがあって、さらに1、2枚各学校がわかりやすいものをつけるという御提案でしょうか。

委員

現在通っている生徒と先生が話し合って作り上げるというのも中学生にはわかりやすくいいのではないのでしょうか。

委員

私自身の大学での体験です。私は夜間部に入学しましたが、入学してみると少人数制で教授との距離も近く、昼間と同じ教育を受けられる上に学費も安く、貴重な体験となりました。高校でも少人数のところもあると思います。そういった学校の雰囲気や距離感を押し出してもいいのではないかと感じました。

委員

今の意見と全く同じですが、本校には定時制があります。定時制は少人数です。教員が生徒に寄り添って教育活動を展開しています。昨日も球技大会がありましたが、生徒たちは生き生きと取り組んでいました。以前は出席率が低くて球技大会が開催できませんでした。今年、4年ぶりに開催できました。少人数指導で生徒に寄り添うことでこのようなことにつながったと考えています。

委員

教育委員会の立場として、中学生が高校受験するにあたって中学校側にもわかりやすく説明していかなければならないと感じました。大阪府のものを見ましたが、ポンチ絵も含めてわかりやすいところもありました。保護者や中学生に分かりやすい形でミッションを提示できるようにしなければならぬと感じています。

会長

大体御意見は出尽くしたようですが、非常に重い御意見をいただいたと思います。

まず、ミッションとポリシーは一体となったものということで取り組んでいただけたらという御意見。そして4月下旬にスクール・ミッションが策定されていくというスケジュール。

また、文言への注文がいろいろ付きましたので、それを参考にさせていただきたい。要は、分かりやすく、あるいは特色は大事ですが序列化が進むことにならないようにということです。

それから、作成過程では、学校側とよくキャッチボールしてくださいということがあったと思います。さらに、各校のガイドブックとは別に、中身は各学校に任せてミッションとポリシー合わせて2枚ぐらいのポンチ絵にしてはどうかという御意見。ここは写真が多くて楽しそうだなとか、いい意味で競争してもらったらという御意見が出たように思います。また、広報についても重要であり、どのようにして広めていくのかということはしっかり検討してくださいという御意見もありました。

評価、チェックをどうしていくのかということも今後議論になっていくと思っております。

第3回では、そのあたりの点検評価、広報について深めていけたらと考えています。事務局の方から何かありますか。

事務局

本当に貴重な御意見をたくさん賜ったと思っております。委員さんから冒頭にありました評価ということについても大変貴重な御提言をいただいたと思っております。県教育委員会としてミッションを示し、それを踏まえて各学校がポリシーを策定していくわけですが、それが実現できなければ修正も必要ですし、ブラッシュアップしていく必要があると思います。そのあたりについては持ち帰らせていただいて、第3回でお示しできるように

検討したいと考えております。

事務局

第1回会議において、高校入試の特色選抜に関して、募集の内容が特定のスポーツに偏っていることから、多様な生徒に対応できるよう見直してはどうかという御意見をいただきました。

特色選抜というのは、本来、スポーツや文化活動、その他、高校が定める特色ある活動、特に部活動において意欲ある生徒を募集するための入試であります。

特色選抜という言葉からしても、今回の各高校の特色化・魅力化を図るための方策として、今後活用しない手はないと考えています。今回のスクール・ミッションやスクール・ポリシーに係る募集枠を加えたりする等、改善の余地があるのではないかと事務局でも考えています。

教育創生課では入試制度を担当しており、毎年3月末に全ての中学校と全ての高校の先生方にアンケートをとっています。その質問内容に、今回は新たに特色選抜の募集人員とその内訳について、スポーツ以外の募集をもっと増やすべきかどうかや、スポーツ種目や文化芸術分野の種類をもっと増やすべきかといった項目を加えてアンケートをとっている最中です。このアンケート結果を踏まえるとともに、当会議とは別に会議を立ち上げて、特に特色選抜の改善について検討したいと考えているところです。

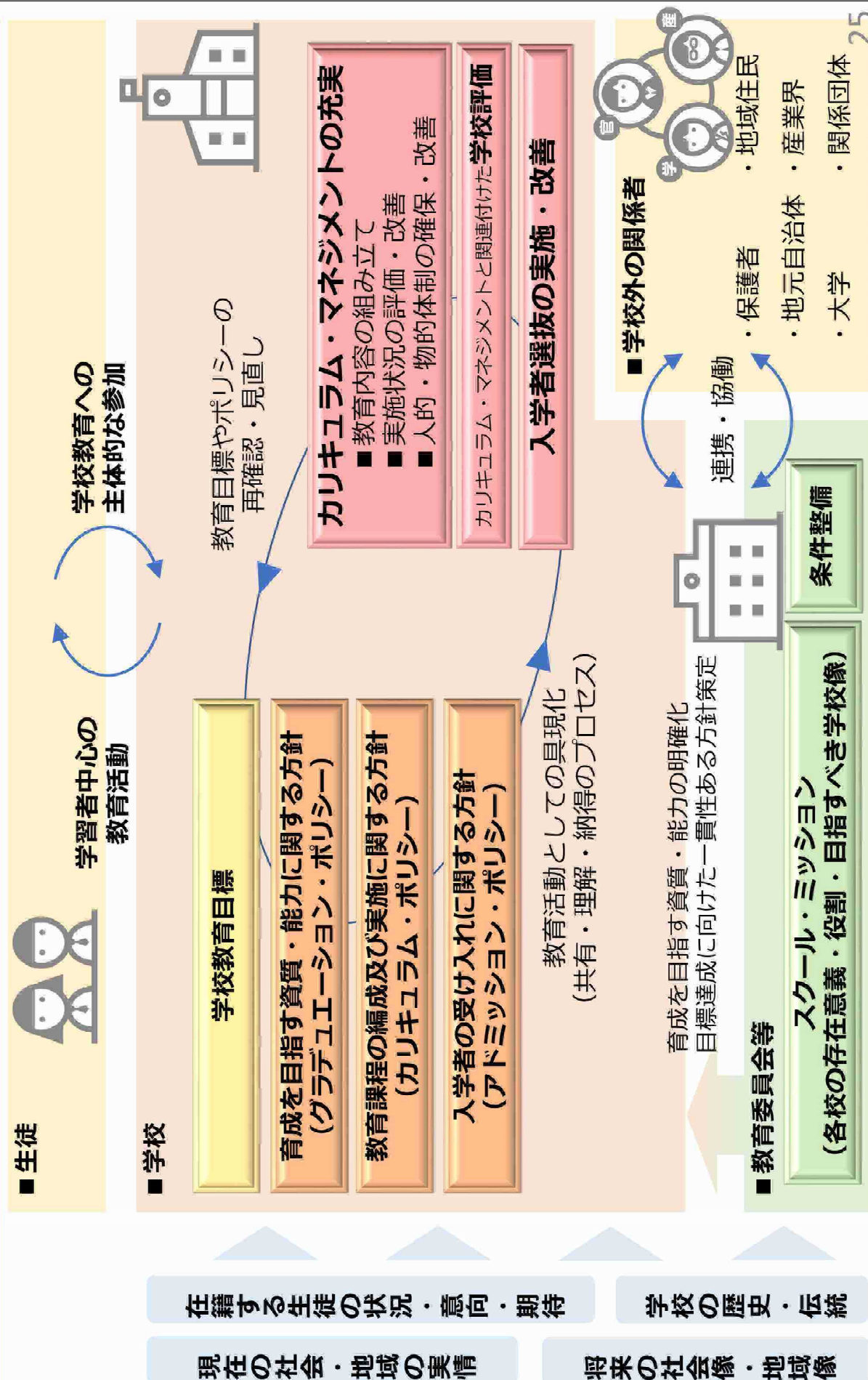
会長

今説明いただいた特色選抜の改善のための会議については、当会議と非常に関連していますので、また情報があれば教えていただけたらと思います。

会長

以上で、本日の議事を終了いたします。皆様方の御協力に感謝いたします。ありがとうございました。

スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づく教育活動の実施・改善（イメージ）



コミュニティ・スクール ～地域とともにある学校づくり～

子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには**社会総掛かりでの教育の実現**が不可欠です。



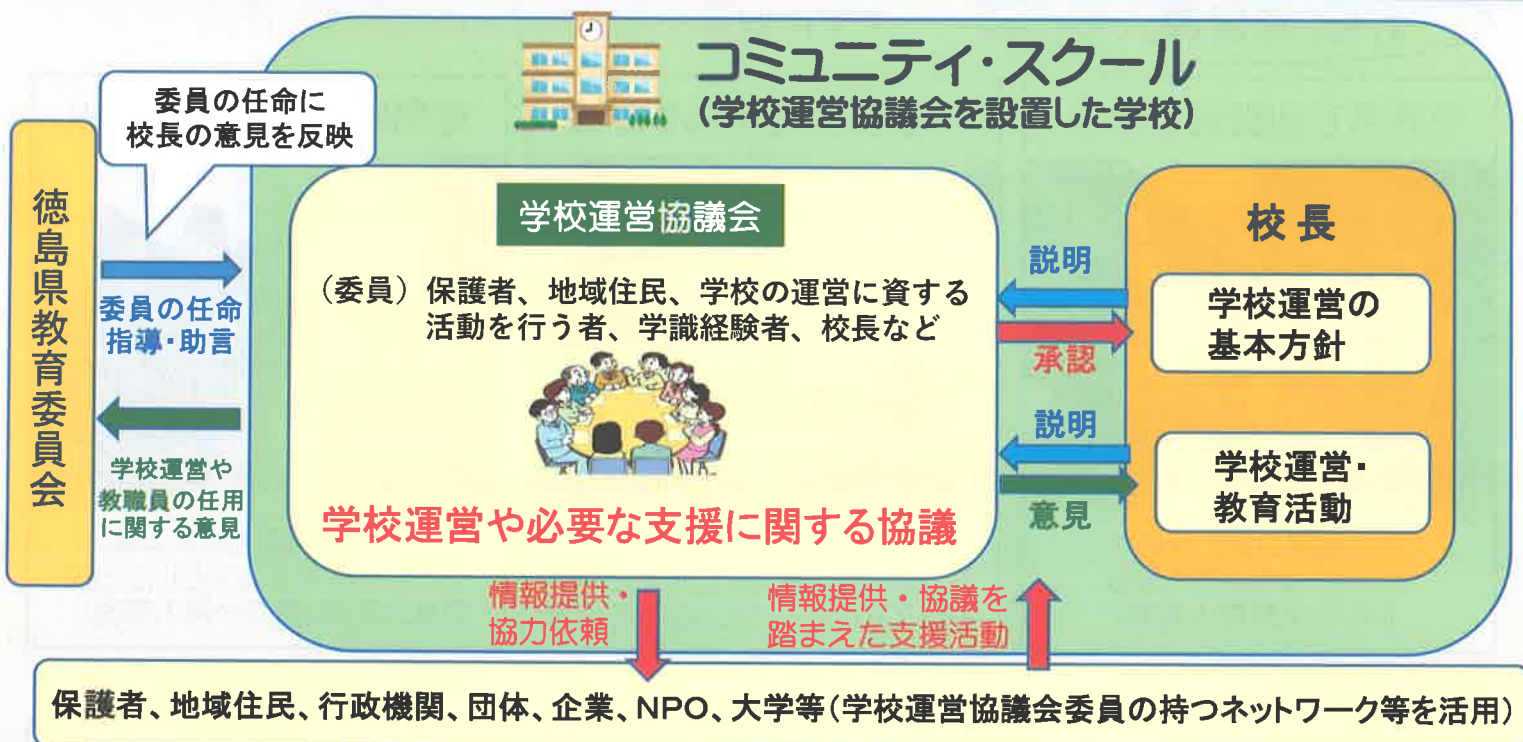
コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。

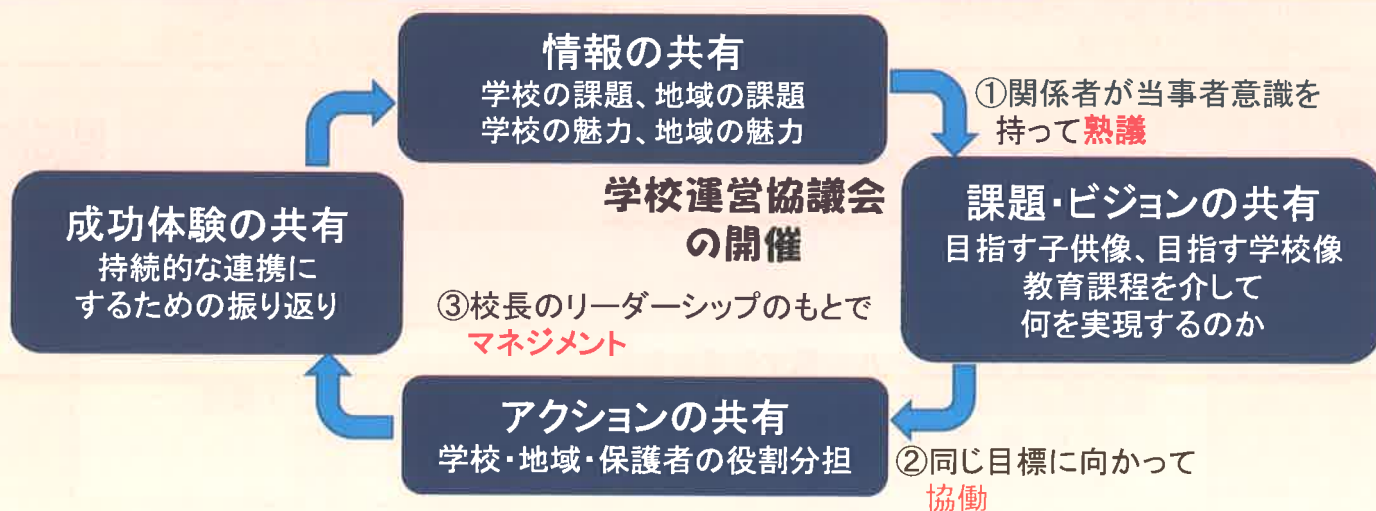
また、学校運営協議会を設置した学校のことコミュニティ・スクールと呼びます。

令和4年度末までに
全ての県立学校に
コミュニティ・スクールを
導入します。

コミュニティ・スクールのイメージ



運営のポイント(熟議・協働・マネジメント)



コミュニティ・スクールの取組で広がる魅力

子供にとって

- 学びや体験活動が充実する。
- 地域との交流を通して自己肯定感や他人を思いやる心が育つ。
- 地域の担い手としての自覚が高まる。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができる。

教職員にとって

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能になる。
- 地域人材を活用した教育活動が充実する。
- 地域の協力により子供と向き合う時間が確保できる。

保護者にとって

- 学校や地域に対する理解が深まる。
- 地域の中で子供が育てられているという安心感がある。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できる。

地域の人々にとって

- 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながる。
- 学校を中心に地域がつながり、地域の活動が活発になる。
- 地域の防犯・防災体制等の構築ができる。

コミュニティ・スクールにおける地域と連携した取組例

令和2年度導入校

まずは既存の取組のさらなる充実から！

徳島県立那賀高等学校



地元企業の協力を得た
インターンシップの実施
(キャリア教育の充実)

徳島県立海部高等学校



地域コーディネーターの仲介による、SDGsに取り組む地元企業を招いてのブースセッションの開催

徳島県立名西高等学校



大学教員や地域人材による、エシカル消費をテーマとした出前授業の実施(探究学習の充実)

全国の実践例

- ・企業や大学等の専門性を生かした出前授業
- ・地域人材を活用した特別講座・フィールドワーク
- ・地元小・中学校との交流、共同学習の充実
- ・地元特産品を使用した商品開発
- ・地域の祭りへの参画

- ・障がいのある子供たちの地域生活を支えるネットワーク会議の開催(高等部をもつ特別支援学校としての企業・施設・団体等との関係づくり)
- ・地域と連携・協働して行う防災教育
- ・学習支援や環境整備などの学校支援

より詳しく知りたい方へ

『コミュニティ・スクール2018』(文部科学省)

『コミュニティ・スクールのつくり方(「学校運営協議会設置」の手引き)(令和元年改訂版)』(文部科学省)

『これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動』(文部科学省)

これらのパンフレットは文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」HPよりご覧いただけます。

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/document/pamphlet/index.html>



【コミュニティ・スクールに関する問合せ】

徳島県教育委員会 〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
学校教育課 TEL:088-621-3134 FAX:088-621-2882
特別支援教育課 TEL:088-621-3142 FAX:088-621-3056